

高齢者と子ども達の交流と健康を促進する、 幼老複合施設と公園のデザイン

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻
1220036 森本 咲
指導教員 重山 陽一郎

1. 背景と目的

現在、土佐山田町では少子高齢化が問題になっている。平成2年の時点で香美市の総人口は32,401人である。その中で、65歳以上の高齢者の人口は7,002人、15歳未満の年少人口は5,003人であったが、平成27年になると総人口27,513人のうち、65歳以上の高齢者が10,205人、15歳未満の年少人口は2,673人となっており、少子高齢化が進行している(図1, 図2)。

また、高齢化が進行することにより、一人で生活していくことが困難な高齢者や認知症になる高齢者が増加していくと考えられる。

この問題が進行すると、子どもや高齢者との交流が少なくなったり、高齢者の身体能力低下が目立ったりし、町の活気が減少すると予想される。

本計画の目的は、幼老複合施設と公園を合わせた空間を造ることによって、高齢者の身体能力向上と維持、また子どもと高齢者を主とする、地域の人々の交流を増加させることである。

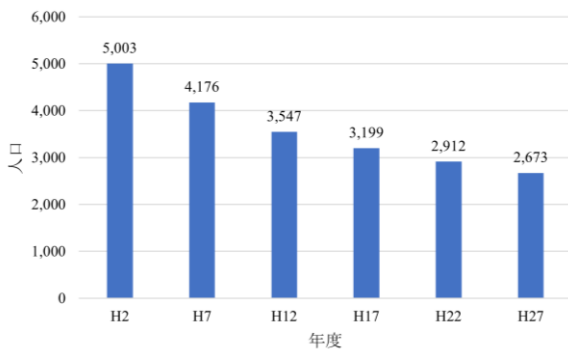


図1. 香美市の15歳未満の人口推移

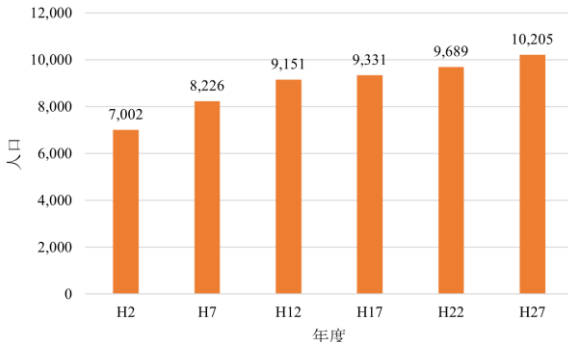


図2. 香美市の65歳以上の高齢者の人口推移

2. 対象敷地

対象の敷地は高知県香美市土佐山田町に位置する。国道195号の南に面し、台地の斜面を跨いだ土地にする。台地は、上下約10mの高低差がある。国道を挟んで正面には、消防署、東には小学校がある。周辺には、山々や物部川があり、自然あふれた環境である。

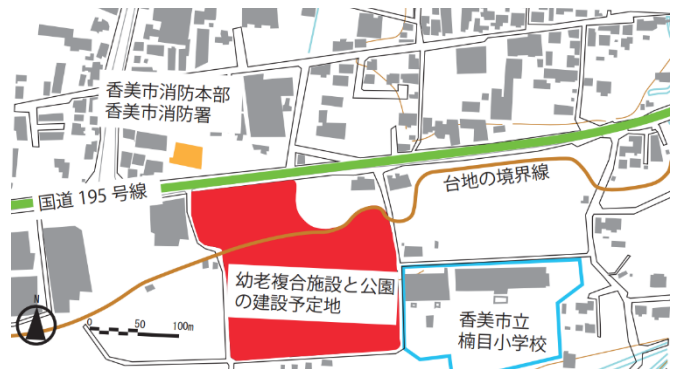


図3. 幼老複合施設と公園の建設予定地

3. 設計方針

幼老複合施設と公園を合わせた空間を造り、地域の交流の増加と高齢者の身体能力向上と維持を目指す。

1) 幼老複合施設

幼老複合施設の中に高齢者用のデイサービスの施設と幼稚園を置き、子どもと高齢者双方が交流しやすい環境をつくる。

2) 公園

・公園は広場と遊具を設計し、子どもから高齢者まで幅広い世代の住民が交流し、且つ体を動かし、健康で活力あふれる地域づくりを促す。

・公園にある遊具は台地の高低差を利用したデザインにする。



図 4. 敷地全体のゾーニング

4. 設計

4.1 対象敷地のゾーニング

対象の敷地を幼老複合施設、広場、花園、遊具の 4 つのゾーンに分ける。

ゾーンを大まかに分けることによって、花園ゾーンでは静かに散歩できる空間になり、遊具や広場はのびのび体を動かすことができる空間となる。用途を大まかに分けることによって、その時の目的に沿って公園を使い分けることができる。

4.2 幼老複合施設

4.2.1 台地の斜面を利用した構造

・施設は台地の高低差を利用し、坂に沿って徐々にずれていく構造にする。そうすることで、土佐山田町の地形を活用した幼老複合施設を設計することができる(図 6)。

・建築物を階ごとにずらしていくことで、公園から見て、圧迫感を減少することができる。また、入り口は一階と四階にある。

・幼老複合施設では、三階に高齢者と子どもたちが交流する遊戯室を配置する。その遊戯室を挟んで、二階には幼稚園、四階にはデイサービスを置く。そうすることで、利用者が三階に行き来が容易になり、交流しやすい環境になる。

・一階には多目的室と映像室を配置し、幼老複合施設の利用者だけでなく地域住民も借りることができ、住民からも親しみやすい施設になる。



図 5. 幼老複合施設のパース

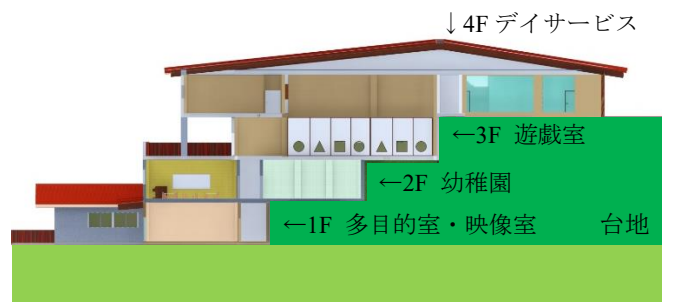


図 6. 幼老複合施設の断面図

卒業論文概要

4.2.2 幼稚園

二階の幼稚園は 3 歳から 5 歳の子どもを保育する。保育室の他にも小さな広場という空間を設け、本を読んだり絵を描いたりできる(図 8)。

園庭では、斜面を滑ったり段差を上り下りしたりできるアスレチックを設計する(図 9)。



図 7. 幼稚園の保育室のパス



図 8. 幼稚園の小さな広場のパス



図 9. 園庭のパス

4.2.3 遊戯室

園児と高齢者が交流する遊戯室では、高齢者が子供に本を読んであげたり、体を動かしたりして交流する。

また、デイサービスのレクリエーションで高齢者だけが運動する際には、遊戯室とレクリエーション室を可動式の壁で遮るようにする。



図 10. 遊戯室のパス

4.2.4 デイサービスの食堂

四階のデイサービスの食堂からは、遊戯室を窓から見る事ができ、高齢者は子供たちと直接交流しなくても子供たちが楽しく遊んでいる様子を見ることができる(図 12)。また、公園側の窓からは花園を眺めることができる。



図 11. デイサービスの食堂のパス

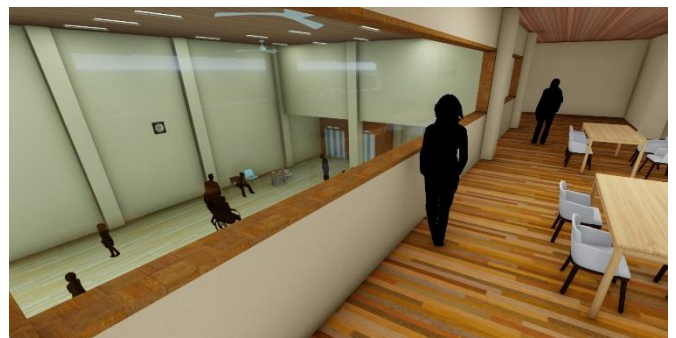


図 12. デイサービスから遊戯室を見た様子

4.3 遊具ゾーン

斜面の高低差 10m に段差を設け、スロープや階段を使って上っていく遊具を配置する。遊具で遊ぶ際は、斜面の下から徐々に上っていき、最終的に頂上にたどり着くことで、達成感をえられるようにする。

また、スロープを設けることによって、車いすを利用した方や、足腰が弱っている高齢者の方も利用しやすくなる。



図 13. 遊具全体のパース



図 16. 花園のパース



図 14. 遊具で遊ぶ人の様子



図 17. 花園の通路の高低差の様子

4.4 広場ゾーン

広場では、ボール遊びや鬼ごっこなど、幅広い遊びができる。花園ゾーンとの境には階段を設ける。周辺には樹木が植わっているため日陰ができ、階段で少し休憩したり、子どもが遊んでいる様子を眺めたりできる。



図 15. 広場のパース

4.5 花園ゾーン

公園の南側に花園を設置し、花を見ながらも上下運動ができるよう、通路に高低差を造る。

通路の高低差は約 50cm に設定し、スロープや階段で上り下りできる(図 17)。

スロープを設けることにより、高齢者の方や車いすを利用している方の移動がしやすくなる。

また、花園にはいくつか視点場を設けており、池の周辺の視点場では、池に反射した花々や空などを見ることができ、より開放的で幻想的な風景になる(図 18)。



図 18. 花園の視点場の様子

5. まとめ

本計画により、施設や公園に高齢者や子どもだけでなく、地域の人も集まることにより、地域の交流が活性化する。

遊具や花園のスロープを上り下りすることで上下運動ができ、高齢者をはじめとする地域の人々の身体能力向上ができると考察する。

6. 参考文献

『第 2 次香美市復興計画 概要版』 高知県香美市 平成 29 年

『第 2 期香美市地域福祉計画・地域福祉活動計画』 香美市 香美市社会福祉協議会 平成 30 年

『香美市 人口ビジョン』 高知県香美市 平成 27 年